上野市社会事業協会 2004

2004年3月10日　第6号
社会福祉法人上野市社会事業協会
発行者　森下達也
編集責任者　西岡時彦

〒518-0032 三重県上野市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670

【上野市寺町】七つの寺院が集まる寺町は、白壁の風景が美しく落ち着いた雰囲気が感じられます（写真：谷　直也）

「不安」を正視しよう

社会福祉法人　上野市社会事業協会理事長
森下達也

学生時代の社会福祉テキストには大抵載っている筈ですが、十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、イギリスで様々な社会調査が行なわれました。チャールズ＝ブースやシーボム＝ロントリーらの実証的研究としての調査です。一口に言えば、市民の生活状態の調査から、貧困の原因や問題点を探り出そうとしたものでした。これらの調査が、その後の社会保障構築に大きな影響を与えたことは言うまでもありません。

今の日本の実態はどうなのでしょうか。限定的な調査をしばしば目にはしますが、出来ることなら一度、巨視的に大規模に調査をやってほしいものだと思います。勿論、二十世紀初頭とでは生活程度も社会背景も異なりますから、視点やり方はかなり違ったものになるべきでしょうが、政治的政策的意図を一切排してやれば、今後の日本のあり方によい示唆が得られるかもしれません。

どうして今日、黒い霧のような「不安」が、多くの人の心を閉ざしているのでしょうか。社会保障費をどこまで膨らましたらその霧を吹き払うことが出来るのでしょうか。もしかすると、「安心」を構築するための基本的な視座に誤りがあるため、足元には「不安」という奈落が存在しつづけるのではないでしょうか。

介護保険制度についての見直し検討は進行中ですが、経済的階層によって制度への評価やかかわり方がどう違っているか、知っておきたいものです。福祉とマーケットとのよりよい関係や、規制緩和の範囲や、行政の役割の再認識などについても、何らかの答えが出るかもしれないのです。何れにしても二〇〇四年は、疑問を投げかけた途端に、守旧派だの抵抗勢力だのと非難を浴びせることをやめて、虚心に、社会保障をめぐる難局打開と軌道修正を考える雰囲気がほしいものです。

デイサービスセンター「なしのき」の お年寄りとの交流会

手を握ると、心がとけあうようです

核家族化がすすんでいる現代社会では、世代間の交流が希薄になってきています。

保育園では、これまでも当法人が運営する老人ホーム梨ノ木園や老人デイサービスセンターなしのきを訪問し、お年寄りとの交流を行なってきました。

お年寄りと子どもたちは、歌を一緒に歌ったり、伝承遊びや肩たたきをしながら楽しいひと時を過ごします。

ふれあいの中では、「さっきは上手やったな」「かわいいな」などと声をかけてもらうと、子どもたちも、「おじいちゃんの手、大きいな」「しわいっぱいあるな」と言いながら、お年寄りの手を握りに行くなど、お互いに何かを感じあっている光景は、ほほえましいものです。

これからも、心と心がふれあう交流を続けていきたいと思っています。

ふれあいあそびを楽しむ園児とお年寄り

『世界でたった一冊の絵本』

《当協会十四保育園での取り組み》

子どもたちは絵を描くことが大好きです。一年間丹精込めて描いてきた絵画を、毎年親子で手作り絵本にしています。

親子でふれあいながら絵本作りをする中で、保護者は子どもの成長に気づいたり、また、わが子の新しい発見をするなど、子育てを楽しいと感じてもらえる機会にもなっているようです。

子どもたちは、自分の絵を絵本に変身させるのだという思いで興味津々です。「表紙はどんな風にしようかな」「色紙で動物を折って貼りたいな」「キティちゃんがいいな」などと子どもは自分の意見や考えを取り入れてもらえるので、とても楽しそうです。絵本ができあがると、早速親子でページをめくりながら思い出をたぐっている姿は、とてもほほえましいです。

保護者から「毎年一冊ずつ増えていくのが楽しみです」「子どもの成長が確かめられるこの絵本は、わが家の宝物です」という声が聞かれます。

“世界でたった一冊しかない絵本”は、ものが豊富な現在だからこそより感慨深いものであり、親子のふれあいが深められるこの活動は、今後も続けていきたいと思います。

どんな絵本を作ろうか、一緒に考えます

世界でたった一冊の絵本がもうすぐ完成!!

★正しいブラッシングは、繰り返される体験から★

三重県は虫歯などの歯科疾患予防の基本となるブラッシング普及事業を展開するため、モデル園を募集しました。早速この事業に応募した睦保育園は、三重県歯科医師会上野支部のご協力を得て、この事業の委託を受けることができました。

この事業は、一回だけの体験で正しい歯科保健活動を定着させるのではなく、一回目の実地指導後、二回目、三回目はその体験をもとにさらにフォローアップしていくことができるという特徴があります。

子どもたちはエプロンシアターや立体紙芝居などにより、歯みがきへの関心を高めた後、歯科衛生士さんに染め出し液を塗ってもらい、歯みがきが上手にできる方法を学んでいきます。

睦保育園園医の藤田成康歯科医に検診していただきました

染め出し液を塗ってもらう子どもたち

口の中が赤く染まり出すと友だち同士顔をのぞき合い、お互いの変身ぶりに驚いたり笑い転げたり・・・・。

しかし、赤く染まっているところは汚れているのだと知らされた子どもたちはおおあわて、一所懸命みがき出したのです。赤く染まったところはなかなか薄くなりません。歯科医師さんからのアドバイスをいただきながら、お家の人に仕上げみがきをしてもらうその姿は真剣そのものでした。

この事業を実施していただいたことにより、フォローを受けるたびに改善を目指した指導が受けられ、家族中にブラッシング活動が普及し、歯科保健に対する意識が着実に深まったように思います。

親子で学ぶ交通ルール

近年、予野保育園周辺の交通はひんぱんになり、時には身近に危険を感じることがあります。

そこで、親子で楽しみながら交通安全のルールが身につくようにと、一月二十六日、上野地区交通安全協会女性部会の方々による『親子交通安全教室』を開催しました。女性部会の方々は、大型紙芝居や腹話術、手品など工夫をこらした内容で進めて下さいました。「こんなときはどうしたらいいかな？」との問いかけに、子どもたちは一所懸命考えたり、知っていることを答えながら、交通安全への知識を深めることができました。

また、保護者には、「日常生活の中で大人がまず良いお手本になり、場面をとらえて子どもに教えてあげてください」と話されました。

今回の『親子交通安全教室』で確認しあったことを子どもたち自身、自分で身を守ろうとする力になるよう、日々の生活の中で繰り返し指導していきたいと思います。

交通安全の話に聞き入っている子どもたち

平成16年４月から 放課後児童クラブ「レインボーうえの」がスタートします!!

【対　象】 保護者が何らかの理由により、昼間家庭にいない小学校低学年児童。

【利用日及び利用時間】

〈通　常〉 月曜日から金曜日までの毎日。授業終了時から午後６時まで

〈特別利用〉 土曜日（曙保育園で実施）、夏休み、冬休み、春休み、学校創立記念日など。午前８時から午後６時まで

【休園日】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他の休日

【申し込み・問い合わせ】

TEL・FAX（0595）23−0139

ひかり保育園

新しい年が明けました！
今年も良い年にいたしましょう
―盲養護老人ホーム梨ノ木園―

平成十六年元旦、梨ノ木園では岡八幡宮獅子神楽保存会の方々による獅子舞をお招きして、恒例の『新年祝賀会』を行ないました。日本の伝統芸を全身で感じ取ろうとされる目のご不自由な方々のために、獅子舞はぐっと近づいて下さり、獅子頭や天狗のお面に触れさせていただいた利用者の皆さんの感激はひとしおでした。「今年も福がやってきたわ」と清々（すがすが）しい笑顔がいっぱい。年始めの嬉しいスタートでした。

新年祝賀会のあと、みんなで記念撮影をしました

天狗様に福を授かりました

また、新春行事のひとつであるお茶会は、一月八日に行なわれました。園内に流れる琴の音に誘われるように茶席に着くと、抹茶の香が漂い、茶せんの音がかすかに聞こえてきます。椿や梅、山茶花（さざんか）の花を型どった和菓子が出され、茶道クラブの方々が点てて下さったお抹茶が運ばれました。

なごやかに、しとやかに、おいしいひとときがゆっくり流れていきました。幸せがそこにありました。

さて、新しい年への願いをこめて初詣に出かけることも新年の大切な行事です。今年も近くの西蓮寺と射手神社へお参りしました。小春日和の道を職員と共に徒歩で参拝される方もあり、マイクロバスで参拝される方もありました。

ご自分の手でお賽銭を入れて合掌される後姿からは、お一人おひとりの新年に対する思いが伝わってきました。

皆さんにとって、今年もすこやかな良いお年でありますようにと願っております。

御手洗（みたらい）で手と心を清め　初参り

介護相談員さんをお迎えして
～特別養護老人ホーム第二梨ノ木園～

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園では、月に１回、約１時間介護相談員に来ていただいております。これは伊賀介護保険広域連合介護相談員派遣事業として行なわれるものです。介護相談員は、介護老人福祉施設である第二梨ノ木園の依頼により、伊賀介護保険広域連合から派遣され、３名の方が交代で来て下さっております。

在園の皆さん方の話を聞き、さまざまな相談に応じて下さる相談員は、ある時は、利用者の方々と行事に参加し、共に手拍子をとり、共に歌い、共に笑い合って下さいます。また、居室を訪ねて、ベッドで休まれている方々に声をかけていただいております。介護相談員から「皆さんは楽しく生活されていますね」との言葉をいただいて嬉しく思っておりますが、利用者の方から聞き取っていただいた声は大切に受け止め、これからの介護サービスに反映していきたいと思います。

介護相談員の岸森恒男様と談笑する在園者

光都の会

《三筋の糸》で訪問していただきました

三味線の愛好会「光都の会」の皆様の訪問を受けるようになって、今回で三回目を迎えました。

第二梨ノ木園のお年寄りは、三筋の糸を撥でつま弾く心地良い音に満足されているようで、知っている唄が演奏されると、拍子に合わせて自然に体が動きだします。その様子を見て、「光都の会」の皆様も、つま弾く撥に熱が入ります。演奏者とお年寄りの心がつながるひとときです。私たち職員も、「光都の会」の皆様が一所懸命に三味線を弾いて下さる心意気に感動を覚えます。三味線による訪問が、回を重ねるごとにお年寄りの心を和ませてくれるようです。

これからも、訪問を続けていただけることをお願いしていきたいと思っています。

三味線の音色に、心癒されました

楽しみはみんなで

老人デイサービスセンター「なしのき」

老人デイサービスセンター「なしのき」では、『趣味の時間』に、マフラー作りをされる利用者の方がふえています。手でハンドルを回すと、簡単に編める毛糸編機を使います。わずかな時間で自分だけのマフラーが出来上がっていくのがとても嬉しいと、人気があります。何色のマフラーを作ろうかと会話も弾みます。

また、俳句作りに熱心な利用者もいらっしゃいます。日常生活の中で心に感じたことを書きとめておき、「なしのき」を利用される時、みなさんに出来上がった俳句を披露して、感想を聞くのが楽しみです。

そんな『趣味の時間』を利用者の方がそれぞれに楽しまれ、その楽しみが他の利用者の方にも広がっていけばいいと思っています。

毛糸編機でマフラー作りを楽しまれる利用者

ほけんだより

寝かせきり老人

「いつ死んでもいいけど、**寝たきり**になって皆の世話にはなりたくない」というのが、高齢の患者さんの合言葉である。ところが、寝たきりは増加の一途であり、介護保険が早々にパンクするという危機意識から予防対策が注目されて久しい。私は、**寝たきり**の最大の原因は、家族だと思う。日本社会の美しい風習？　かも知れないが、老人の調子が悪くなると家族はまず横になれと勧め、上げ膳据え膳の生活を始めてあげることが、今まで家族のために働いてくれた祖父母への礼、美徳と考えているようだ。病医院に薬だけ取りに行ってやり、次は往診を依頼する。応じる医者にも多大な問題があるが。かくして、**寝かせきり**が完成する。**寝かせきり**にされた老人は**寝たふり**をしている内に廃用性萎縮が進み**寝たきり**となる。余程重症でない限り、日常的に臥床せず、させず過ごせば、**寝たきり**は、今の50％に減少すると確信する。

梨ノ木診療所　循環器専門医・水谷敬一

素敵な贈り物

オリジナル家具をありがとう

―梨丘園―

梨丘園の二階ホールに置かれたテーブルと新聞立てが、今ではすっかり利用者の方々の生活に溶けこんでいます。昨年一月二十三日に上野工業高等学校インテリア科の生徒さんから贈られたオリジナル家具は、木のぬくもりがあり、いつしか周りに人が集まります。

そしてまた、新しい年を迎えた今年一月十九日、テラスに置くテーブルセットと、リネン室用整理棚を贈っていただきました。利用者の方々が待ちのぞんでいたところに、生徒の皆さんの手で家具が運び込まれました。

利用者の方々は思いおもいに触れながら、このテーブルを囲んでみんなの笑顔が集まることを思い浮かべておられたのではないでしょうか。

素敵なプレゼントを本当にありがとうございました。

贈っていただいたテーブルを囲んで（写真奥：上工生徒の皆様）

かしの木ひろば さく・咲く・作品展

十一月二十七日から二十九日までの三日間「第十回かしの木ひろば さく・咲く・作品展」を開催しました。会場には、さをり織、七宝焼、クラフト、手芸、俳句、陶芸、伊勢型紙、パソコンで作成したカード、生け花等、講師の先生やボランティアさんと共に作った作品が並びました。個人の作品では、阪神タイガースの大ファンの利用者が優勝の喜びを六甲おろしの書写で表現しました。

初日にはお茶席を設け、月一回の「お茶の会」で中森美年子先生にご指導いただいている利用者が、お手前を披露しました。「お茶の会」は平成十年に福井きんゑ先生のご指導で始まり、現在は十数名が参加する人気の会です。

期間中は利用者それぞれが受付や案内役、販売員などに分かれ、お客様を接待しました。

今年の作品展も、約二五〇名の方々にご来場いただき盛会のうちに終わることができました。

かしの木ひろば“さく・咲く・作品展”の会場

お茶と会話を楽しんでいます

障害者福祉に関する
お問い合わせ等は下記まで。

伊賀広域在宅障害者生活支援センター

かしの木

上野市寺町1184－2
TEL/FAX　22－2288
（夜間FAX）21－2745

ITバス、参上！
＝上野点字図書館＝

一月二十九日より、計五回の日程で、視覚障害者パソコン講座を開催しました。今年で三年目を迎えるこの講座は、名古屋ライトハウス名古屋盲人情報センターのご協力をいただき実施したものですが、ITバス「まいるか号」で講座を行なうのは初めてです。

「まいるか号」とは中型バスの中にIT機材十台を設置し、駐車のスペースさえあればどこでもバスの中でパソコン講習会を開催できるようにした車両です。

今回のテーマは「Webコンテンツ製作者養成講座」で、今まで以上に高レベルな内容です。この講座は、受講者の「伊賀電脳倶楽部」の部員が、伊賀地域に在住する視覚障害者に対してパソコンの指導ができるようになっていただくためのステップとも考えています。視覚障害者の社会参加、情報のバリアフリーを目指すためにも有効に機能していくものと思います。

ITバス“まいるか号”の車内でのパソコン講座

点字講習会
ー青山中学校の取り組みー

青山町立青山中学校では平成十六年四月から全盲の男子生徒が入学するのを機会に、彼の能力を充分に伸ばし、将来仕事に就いて生きていく生活力が身につくような教育実践に意欲を出されています。そのためには教員自身が少しでも盲教育の専門性を身に付ける必要があることに着され、当館に計五回の予定で点字講座の依頼がありました。

彼が入学してきたら、教員の方々がパソコンと点字プリンターで、教材や学年通信等も点訳する予定だそうです。このような活動が全校生徒にも広がっていくように期待しています。

青山中学校での点字講習会

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々

（平成十五年十一月～平成十六年二月）

《個人》

―敬称略―

秋本　守英、味岡　一典、井岡　昭、池住　圭吉、石原　京子、猪木　千里、今井　克代、岩田　裕子、上田　順子、上田　甫、太田　久子、大野　利江、岡森眞理子、奥田　英夫、川合智恵子、川浪　玲子、欅　悦子、小林ふじ智、澤山　正治、清水　愿、清水　専二、杉本ちえみ、朱雀　文雄、鈴木　宏和、竹岡　宏樹、竹島　和美、田中　しえ、田中三紀代、田中美代子、田中　義明、谷本　洋、谷本　善、玉川　弘毅、壷田　正一、冨田　幸治、豊田　実、長町　尚格、中村　二郎、中森　勇、中森美年子、西出　成子、長谷川かよ子、服部　明伸、日置　房野、広瀬　亮宗、福井　紀生、福田　健吉、福森　辰男、福森つた子、藤井　恵美、藤島　康子、藤田　成康、別所　法山、前川　賢一、町野冨小枝、松坂　清俊、松下　淑、松永　幸子、峰　正博、村井　充子、村田　修、村手　光紀、森下　弘子、森田　満枝、森中　菅子、矢倉　晶、大和　幸司、吉川恵喜子、吉村　武美

《団体》

―敬称略―

ボランティアグループあゆみ、上野点訳奉仕グループあい、名張点訳奉仕グループあかり、上野音訳グループしのび、名張音訳グループこだま、光都の会、絵手紙いろは、長田小学校、上野工業高等学校、岡波看護専門学校、高田短期大学、椙山女学園大学、皇學館大学、上野市、上野市議会、小田町自治会、桑町自治会、長田地区自治会、花垣地区民生委員、小田町公民館、長田地区公民館、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、三重県歯科医師会上野支部、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、上野市文化都市協会、上野市文化祭実行委員会、上野市芸術文化協会、アイパートナー、自動車事故対策機構、上野市視覚障害者福祉会、上野市更生保護婦人会、上野地区交通安全協会女性部会、上野市飲食業組合、上野市東部地区老人クラブ連合会、神戸老人クラブ連合会、神戸老人クラブ連合会女性部、長田地域婦人会、伊賀法人会女性部、月曜会、水月会、平岡カラオケ教室、岡八幡宮獅子神楽保存会、西蓮寺、大宝寺、法音寺上野支院、射手神社、平井神社、上野聖ヨハネ教会、天理教栗田分教会、井上美容室、上野清掃社、上野ハウス、魚留商店、奥田理容店、岳舳興業、サンショク、住友生命相互会社三重支社、前田魚店、マルキンパン本店

❀表彰―ふたつの受賞―❀

今般、森下理事長が中日社会功労賞を、中森常務理事が厚生労働大臣表彰をそれぞれ受賞されました。

中日社会功労賞は中部九県内で豊かな社会づくりに取り組む人たちをたたえ贈られるもので、今回は十一名が受賞されました。十二月九日、中日新聞名古屋本社にて贈呈式が行なわれ、書家の松下芝堂氏直筆の賞額が手渡されました。

また、厚生労働大臣表彰は多年にわたり社会福祉の発展に功労のあった方々に贈られるもので、十一月十一日、東京都内の日比谷公会堂で開催された「全国社会福祉大会」で表彰式が行なわれました。

去る一月二十三日には、ご両名の多年に渡る功績と受賞の栄誉をたたえ、曙保育園ひまわりホールで「お祝の会」を行ないました。

“おめでとうございます”「お祝いの会」を催しました

上野点字図書館のボランティアの方々が製作された図書等

H15 11／1～H16 1／31

グループ「あい」（点訳）

・点訳図書　一タイトル三冊
・内ＰＣ点訳　一タイトル三冊
・製　本　一タイトル三冊
・点字触読指導　教科書の点訳

グループ「あかり」（点訳）

・点訳図書　三タイトル十三冊
・内ＰＣ点訳　二タイトル十冊
・教科書・参考書等の点訳
・名張市広報の点訳

グループ「しのび」（音訳）

・音訳図書　三タイトル十一巻
・ＣＤ図書　十一タイトル
・上野市広報の音訳
・大山田村広報の音訳
・中日新聞コラムの音訳
・梨ノ木園・第二梨ノ木園読書会

グループ「こだま」（音訳）

・音訳図書　三タイトル二十四巻
・ＣＤ図書　七タイトル
・中日新聞コラムの音訳

編集後記

◇桜のつぼみも少しずつふくらみ始め、花が満開になる陽気が待ち遠しい季節になってまいりました。皆様方におかれましては、お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。
◇“伊賀を撮る”は今回で３回目を迎えます。回数を重ねるごとに素晴らしい写真が増え、徐々に当協会職員の楽しみのひとつになってきています。機会があれば“伊賀を撮る”に掲載された『名所』を訪れてみてはいかがでしょうか。
◇会報の表題も「2004」へと変わりました。今後も定期的に発行していきたいと思っておりますので、ご意見ご感想を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。（編集子）

『伊賀』を撮る

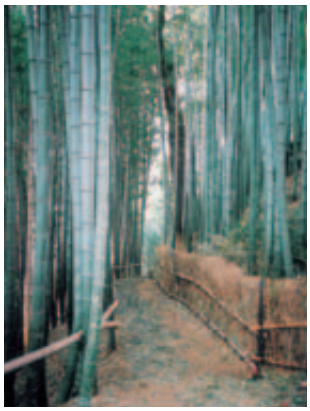
「東高倉、梅一輪の暖かさ」
薮山登貴（花之木保育園）

「羽根、春を待つ梨の木」
菅野牧子（三田保育園）

「森林公園、風のとりで」
竹内佐千子（ゆめが丘保育所）

「菖蒲池の勧請縄」
今岡美樹（長田保育園）

「雪化粧の高畑山」
瀧口光教（上野点字図書館）



「竹の道から小六坂へ」
山出栄子（ひかり保育園）

「陽夫多神社、お旅所古墳」
森田展代（かしのみ園）

「白藤の滝」
谷　直也（上野点字図書館）

「伊賀で初めて、道の駅」
藤森美幸（中瀬城東保育園）

旧上野警察署庁舎（北泉宅）

「芭蕉生家」上杉美知代（睦保育園）

1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園 （定員）	70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園	50人
3	老人ショートステイ	20人
4	老人デイサービスセンター なしのき	
5	在宅介護支援センター なしのき	
6	梨ノ木診療所	
7	曙保育園	180人
8	睦保育園	90人
9	三田保育園	60人
10	中瀬城東保育園	115人
11	友生保育園	60人
12	花之木保育園	60人
13	予野保育園	45人
14	長田保育園	45人
15	古山保育園	45人
16	みどり保育園	150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園	
18	ひかり保育園	120人
19	みどり第二保育園	120人
20	府中保育園	90人
21	ゆめが丘保育所	180人
22	上野点字図書館	
23	上野市盲人ホーム	
24	在宅障害者デイサービス施設 かしの木ひろば	
25	伊賀広域在宅障害者生活支援センター かしの木	
26	身体障害者療護施設 梨丘園	20人
27	児童クラブ フレンズうえの	
28	児童クラブ キッズうえの	
29	児童クラブ ウイングうえの	
30	児童クラブ レインボーうえの	
31	法人本部事務局	